

ともに生きる

No.25

平成 25 年 3 月 発行



ご挨拶

後援会長

にし
西 口 朋 子

春の気配を感じる日々となりました。後援会の皆様におかれましては、日頃よりご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、近畿医療福祉大学におきましては4月より神戸医療福祉大学へと校名を変更し、学科・コースの再編、サテライトキャンパスが神戸三宮に開設されるなど教育課程が充実されます。後援会と致しましても学生の為のよりよい環境づくりが出来ます様、応援をしていきたいと考えております。

平成24年秋以降の大学行事としまして、10月27、28日に第13回播彩祭が開催されました。今年は「咲・さく」というテーマで企画が展開され、実行委員会の皆様をはじめ学生の力で学園祭を作り上げ、個々の「咲」が大きな花を咲かせたように思います。2日目はあいにく雨模様となりましたが、多数の方がご来場され地域社会との触れ合いが実感できたのではないかと思われます。

公開講座も年々内容が多彩になり、サテライトキャンパスでは9月から11月にかけて5回シリーズで開催され、こころとからだのための健康の技法について、社会で活躍する本学の卒業生の方と教員の方がともに講師をされました。姫路キャンパスでは11月に4回シリーズで開催され、介護の基礎知識、発達障がいをもつ子どもへの生活の支援等、学生・一般市民を対象に熱心な講義が展開され、大学の目指す生涯教育、地域連携事業として重要であると感じました。

12月には教育懇談会が開かれ、教育への取り組みの説明及び個別懇談会があり、多数の保護者の方の参加を頂きました。大学での教育活動を知ることができ、保護者としましてもそれぞれの学生が社会に歩み出すうえで、ともに歩み、支援することも大切だと思いました。

1月26日、27日には社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験が実施されました。受験生の皆様には多くの朗報が入る事を願っています。また、受験対策に力を注いで下さった教職員の皆様、誠にありがとうございました。卒業される方々には本学のめざす“こころの福祉”を実践され、社会へ貢献できる人材となって頂きます様、期待致しております。

最後になりましたが、4月からは神戸医療福祉大学としての更なる発展を願い挨拶とさせて頂きます。

目次

• ご挨拶（後援会長）	1
• 希望と可能性に満ちて明年度へ（学長代行）	2
• 平成24年度の大坂キャンパスをふりかえって・就職支援について	3
• キャリアパス 1年生の新しいキャリア教育の成果・教育懇談会	4
• 公開講座（姫路キャンパス・サテライトキャンパス）	5
• ROSEに参加して・福崎町学童期運動・食育教室の取り組み	6
• クリスマスボランティアに参加して・恒例のもちつき大会を開催・バーベキューイベントに感激	7
• 就職活動を振り返って	8
• 実習体験記	9
• 播彩祭報告・アジアベンチプレス選手権で見事優勝!!・連盟表彰受賞について・平成24年度 後期クラブ活動概要報告	10



希望と可能性に満ちて明年度へ

学長代行・教授

やま にし たつ お
山西辰雄

皆さまの大切な、そして将来にたくさんの方の可能性をもたらしているご子弟が今年度も大過なく学修され、成長を遂げられてきていることと拝し、心よりお慶び申し上げます。また、保護者の皆様方がご健勝であることを祈念し、そのように拝察申し上げています。

この一年間、いかがでございましたでしょうか。

私自身は、私を生み、育て上げてくれた両親等、そして今までたくさんの教えと励ましを賜ってきた大学の恩師、さらに職場の恩師や同僚たちとの接点を思い、それらがわが身に幾重にも財産となっていることを深く感じながら、生きています。ある時は至上の喜びとして、ある時は厳しき戒めや反省点として…など、それら財産を心と掌（たなごころ）に感じ取りながら進んでいます。

大学の恩師は、たとえば、決して学生を、そして青年を威嚇してはならないと戒めてくださいました。「あなたが…しなければ…」「貴君が…しないから…」コレコレの処分をする、処分を考える（リスクを負わす）等と言うのを絶対に避けるべきであることを、永年の訓育の中で教えてくださいました。この恩師は、男性でしたが、絶えず私たちを○○さんと呼んで大人扱いをしてくださいました。また、「君が悪い」と言うべき場合には絶えず、「もっと努力が必要です」「私たちが反省すべきだよ」と語りかけてくださいました。謙虚で深い愛情をすべての同僚や学生たちに差別なく与えてくださったものを感じています。

大学は一人ひとりの学生・青年の志をもとに可能性と個性を伸展させるところであると、私は考えています。とくに当学園に勤めて、強くそのことを感じている一人です。青年の志を感じるとき、教育者だけではない、だれしもが否定しがたい喜びと使命（ミッション）をもつと思われますが、この「志」を感じ取るのが教育者の責務でもあります。

後援会報「共に生きる」は、今号も後援会様と大学に生じた、この一年間のたくさんの情報を収められています。できましたら興味深く読んでいただきまして、これ・どういうこと?…という疑問も生じるかもしれません、それを含めまして、ご子弟や関係教員に、あるいは他の後援会員様に質問や意見を賜ることができましたらと思います。ご子弟が一人ひとり成長する場としての大学でございます。一年間の思い出と抱負を胸に新しい出発を期する春が、ここまで来ています。どうぞ、なにくれと教職員にご相談やご意見を賜ってまいりますように、お願ひいたします。





平成24年度の大阪キャンパスをふりかえって

ひろいまさと
大阪キャンパス長・教授 拾井雅人

いつもは外国人留学生や日本人学生の話す母国語が飛び交う大阪キャンパスも、春休みに入って、ひとときの穏やかな静けさを取り戻しています。ふりかえってみると、半年前も、後期授業の開始を前に同じような静けさが大阪キャンパスを包んでいました。ただ1つ違っていたのは、夏休み期間中に起きた出来事によって、国と国の関係が今以上にぎくしゃくしていたこと…。母国に帰った留学生は元気な姿をまた見せてくれるだろうか。日本に残った留学生はトラブルに巻き込まれていないだろうか。日本人学生は動搖していないだろうか。半年前はそんな不安を抱えながら、静けさにじっと耐えていたような気がします。

当時、テレビ画面には留学生の母国様子が映し出されていました。しかし、その様子と大阪キャンパスで見る留学生の様子がどうしても重ならない、重ねたくないと思ってしまう。その思いはどこから来るのでしょうか。いつの頃からか、テレビ映像から感じる異文化と、留学生と日常を共にすることで感じる異文化とが必ずしも一致しないことに気付いていたのだと思います。それを知ることができただけでも、この3年間、留学生教育に取り組んできた意義はあったのではないかと思っています。

後期の授業が始まると、ほとんどの留学生が大阪キャンパスに戻ってきました。いつもと変わらぬ母国語の笑い声で、また賑やかになりました。留学生の中には「両親は反対してたけど、押し切って日本に戻ってきたよ。」と話してくれる者もいました。また、「国と国のこととは関係ないです。私は日本と日本人が好きなんです。」と話してくれる者もいました。私の不安は杞憂に過ぎなかったことを知りました。

もうすぐ桜の季節。そろそろ今の静けさにも退屈を感じるようになってきました。大阪キャンパスにももうすぐ、母国語の賑やかな笑い声が戻ってきます。平成25年度は、大阪キャンパスにとって、1回生から4回生までが初めてそろそろ完成年度です。留学生教育、異文化理解の意義をかみしめながら、大切な年度を迎えるたいと思っています。



就職支援について

はせがわたかし
就職部長・教授 長谷川貴士



保護者ならびに役員の皆さんには日頃より何かとお世話になり誠に恐縮しております。

本学の就職状況ですが、昨今の日本のデフレ・低成長の経済状況にあっても本学が就職に強いと言われる医療・福祉系の大学ということもあって、ここ数年の就職内定率は毎年90%以上を記録しております。ただ来年あたりから留学生が就職に臨むということで、これがどの程度の達成率を上げができるか予測しがたい面があり、今後も就職部は懸命に就職支援に努力していく所存です。

さて、本学の就職対策ですが、例年通り本学の就職部は、学生に対して就職セミナー・就職ガイダンスの開催、就職情報の提供、個別相談の3つの就職対策を中心にして、学生にさまざまな就職支援を行っています。とくに毎年2月と6月には学内合同就職説明会を開催し近隣の多くの企業や福祉施設を学生に紹介しております。昨年は読売新聞から発刊された『就職に強い大学2013』や学研から公刊された『就職率60%時代を勝ち抜く大学2013』に近畿医療福祉大学が掲載されました。また次年度からは「神戸医療福祉大学」と大学名を一新し、「社会福祉学科」「健康スポーツコミュニケーション学科」「経営福祉ビジネス学科」の3学科5コースの編成のもとで就職支援に邁進していきます。

ところで、最近のアンケート調査によれば就職希望の学生に求められる資質としては「語学」などよりも「コミュニケーション力」、「主体性」の必要性が叫ばれているのですが、もっと明確に言えば、就職のためにはいかなる能力を鍛えれば良いのでしょうか。新卒採用では専門性よりも社会人としての基礎力が要求されます。そこで、ここでは2006年に経済産業省が提唱した「社会人基礎力」を紹介しておきます。この社会人基礎力を学生諸君に養ってもらうことによって希望の就職を達成してもらいたい訳です。社会人基礎力とは「組織や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力」、「仕事をする上で必要な能力」です。これは(1)アクション=前に踏み出す力、(2)シンキング=考え方、(3)チームワーク=チームで働く力の3つの力で構成され、さらにそれぞれ細分されます。すなわち、(1)アクションとは①主体性②働きかけ力③実行力、(2)シンキングとは①課題発見力(ここに問題があり解決必要)②計画力③創造力、(3)チームワークとは①発信力②傾聴力③柔軟性④状況把握力⑤規律性⑥ストレスコントロール力、というものです。就職部としては学生諸君がこれらの資質を十分に涵養し、自分の希望する職業に就職されることを大いに期待しております。



キャリアパス 1年生の新しいキャリア教育の成果

キャリアパス委員長・教授

和田典子
わ だ のり こ

キャリアパスでは、24年度入学生から、新しいキャリア教育を目指してさまざまな取り組みを行いました。具体的には、基本的な日本語の書く能力とコミュニケーション能力をつける「文章表現の技術」と、「キャリア演習Ⅰ・Ⅱ」というコースごとの少人数制科目をキャリア科目として設定し、カリキュラムの中に正式に位置づけ、1年間を通して多くの学習時間を設けたことです。その上、東京から上野昌枝先生という専門家の先生を講師としてお迎えし、講義と指導を得ることができました。

「キャリア演習Ⅰ」では、自分自身を知ること、友人とのコミュニケーションを取る方法を学びながら大学生活に慣れ、円滑に学修していくための基礎能力を学び、「キャリア演習Ⅱ」では、自分の夢を実現するために必要な資格や心構え、さらには具体的な勉学の方法などを学びました。その結果、アンケート（授業開始と後で学生に集計した）では、自立性や資格（各コース）の専門性に高い関心を示し、今後も自分の人生設計に関する情報には興味関心を持って積極的に耳を傾けていこうとする姿勢が形成されました。これらは、今後の実習や就職活動にも良い影響を及ぼすことでしょう。

また、ほとんどの学生は「自分の居場所があることが実感できる」「大学生活が楽しい」「自分の将来が現実的に考えられそう」と感じており、なんとなく学生生活を送るのではなく、目標に向かって何をしなければならないかという意識を持ち、その上で学生生活も楽しめるというスタイルが形成されつつあるよう、アイデンティーの形成にも役だったように思えます。

彼らが、4年間しっかり学修し、福祉や健康に寄与する人材として育ってくれることを心から願ってやみません。

教育懇談会

12月8日（土）、午前・午後の二部形式により教育懇談会を開催しました。

教育懇談会は、年の瀬も迫った厳しい寒さの中でしたが、本学の教育研究活動を理解して頂くとともに、学生個々の将来を踏まえた修学について、担当指導教員と保護者の方が十分に話し合える場を持つことを目的に企画しました。山西学長代行の挨拶にはじまり午前の部では、履修関係、学生生活・キャリアパス（学生個々の目標達成支援）・実習・国家試験対策・就職に関して各役職者より、今年度の取り組み状況の説明がなされました。出席された保護者からは、次年度に向けた取り組みについての要望もあり、本学に対する期待の大きさが伺えました。

午後からのクラス担任およびゼミ担当教員による保護者との個人懇談会では、保護者はもにわたる学生生活上の相談や情報交換がなされました。また、今回はじめて就職相談を取り入れ、採用の内定獲得に向けた、これから活動方法について専門スタッフがアドバイスを行いました。



学生生活の紹介（A棟7F）



個人懇談会の様子（A棟5F）

公開講座

姫路キャンパス

学生たちと共に、キャンパスライフのひと時を味わつてみませんか！のキャッチフレーズで本学、姫路キャンパスにおいて11月5日（月）から毎月曜日4回にわたり、近年、クローズアップされてきた少子高齢化社会が織り成す諸問題や、子どもの発達に伴って生じる課題、なか



講義の様子（A棟7F）

でも発達障がいを持つ子どもへの支援について、支援する仕組みや方法などについて学ぶ講座を開催しました。

共通テーマは、『知識が生む笑顔-知って得する制度・取り組み-』でした。第3、4回は兵庫県、大学コンソーシアムひょうご神戸との協働事業による次世代の育成支援講座（「まちの寺子屋師範塾」）です。受講者には、県知事名による「まちの寺子屋師範塾修了証書」が交付され、地域で子どもの発達・健康・食生活などの子育て支援をする際には「まちの寺子屋」の看板もいただけます。

今回は幅広い世代からの参加があり、毎回、時間も足らないくらい活発に質問がなされました。受講者の多くは「最近の社会が抱える問題に即した講座で、内容もわかりやすく、日常生活に取り入れていきたい」と好評を得ました。

開催日	テーマ	内容（抜粋）	講師
第1回 11月5日 (月)	認知症になんでも見守りのある安心な生活を —「笑顔でやさしく！」は信頼関係があつてこそ 日常生活自立支援事業をご存知ですか	「オレオレ詐欺」や「振り込め詐欺」などで、認知症等の方々のお金をだまし取る事件が続いています。この事業は、そんな被害にあわないように、貯金や通帳を社会福祉協議会が管理して、みなさんを守ります。また福祉サービスの支援も行います。	教授 井土睦雄
第2回 11月12日 (月)	介護保険制度の基礎知識 —サービスの特徴と利用方法—	介護が必要な高齢者が増えています。高齢者の介護を支える仕組みである介護保険制度を解説します。介護保険サービスを利用するための手続きと、そのサービスの概要や特徴を取り上げます。受講者との対話を織り交ぜながら、和やかにわかりやすく講演を進めたいと考えています。	准教授 梅谷進康
第3回 11月19日 (月)	発達障がいをもつ子どもの生活を支える(第1回) —学童期の課題ー（学習・人間関係・自尊心）	発達障がいを持つ子どもに対する支援は広がりを見せ、成長に伴つて新たに生じる課題も浮き彫りになりつつあります。（どこで学ぶ？友達との関わりは？仕事をどうする？）それらの課題を支援する制度や取り組みについて学びます。	准教授 梅谷進康
第4回 11月26日 (月)	発達障がいをもつ子どもの生活を支える(第2回) —思春期・青年期の課題ー（進学・就労・社会参加）		准教授 石井恒生

5

サテライトキャンパス

神戸三宮サテライトキャンパスでは、「ともに学ぶ！明るい健康の技術（コツ）」をテーマに5回シリーズで公開講座を開催し、地元二宮地区のみなさまと交流を深めました。

本学の専任教員はもとより、地域のリーダーとして活躍される本学卒業生の方々にも講師としてご参加いただきました。

今後も公開講座を継続して開催する予定です。生活の豊かさ（QOL）を高めるために、地元二宮地区のみなさまにこの機会をご活用いただきたいと考えております。



日時	テーマ	内容	講師
9月9日 (日)	見てさわって学ぶ！ 便利グッズ	福祉機器を紹介しながら、住環境コーディネートの視点から誰もが暮らしやすい生活の提案をしました。	講師 黒木利作 川村義肢株式会社 枝澤 智美
9月23日 (日)	楽しく学ぶ！ 健康体操	歪みを正す姿勢矯正と筋肉ストレッチの実践を行いました。また、笑顔の効用を学んでいただきました。	助教 児玉 友 あそびの工房もくもく屋 田川 雅規
10月14日 (日)	やさしく学ぶ！ 食事と健康	若々しい身体を保つための栄養の知識と調理技法をお伝えしました。医療相談員の業務に関する理解も深めていただきました。	教授 豊山恵子 医療ソーシャルワーカー 西尾真奈美
10月28日 (日)	気分転換！ ストレス対策	ストレスの種類と解消法についての知識を深めました。更に、暗示によって心身が弛緩する過程を体験していただきました。	助教 田仲由佳 精神保健福祉士 宮田 英信
11月11日 (日)	高めよう！生きている 値打ちーおしんとお りんの物語からー	ドラマ「おしん」と橋山節考「おりん」から、自己実現と生涯教育の大切さについて共に考えていただきました。	教授 山田州宏 美容師精神保健福祉士 賴田ヒロ子



ROSEに参加して

よし
吉
むら
めぐ
み
村 恵 並
(臨床福祉心理学科 1年)

私は夏休みにROSEに参加しました。私がROSEに参加した理由は、大学生時代にしかできない経験をしたかったこと、そして、ヨーロッパに行ってみたかったことです。本学に入学するまではこのようなプログラムがあることを知らなかったのですが、その年のオリンピックがイギリス・ロンドンで開催されることもあり、今がチャンスだと思い、参加することにしました。参加した学生には知っている人が少なく不安でしたが、すぐにみんなと仲良くなれ、友達もたくさんできました。

イギリスでは、朝は英語の授業、昼からは町の中や施設の見学という日程でした。英語の授業は内容が難しくないか心配でしたが、日常生活や海外旅行で役に立つ基本的な会話を習いました。授業で習った会話は比較的簡単で覚えやすいものが多く、すぐに使えるものばかりで買い物などに役立ちました。また、英文法なども会話と一緒に勉強することができました。



ビッグベンが青空に映えます

町では、教会、博物館や図書館などの施設見学や2階建てバス（ダブルデッカー）に乗って、町の中を見学したり、ボートとは少し違う形の船を船頭さんが長いポールで操り、船をすすめる「パンティング」をしたり、様々な体験をしました。大学の建物が教会になっていたり、お城みたいだったりと日本ではありえないづくりになっていました。オックスフォードにあるクライスト・チャーチや図書館はハリー・ポッターの映画に使われていたところもあり、映画の中の世界を実際に体験することができました。

また、研修のなかでロンドンにも3日間行くことが出来ました。最初に行った大英博物館は一日あっても全部見ることができないくらい広かったです。イギリスには博物館がたくさんあり、入場料も無料ということにびっくりしました。ロンドンにあるロンドン・アイやビッグ・ベンなどにも行き、写真を撮ったり、観光したりしました。バッキンガム宮殿の衛兵交代にはとても驚き、感動しました。ロンドンでは地下鉄に乗りたり、様々な観光スポットを訪れたりして有意義な時間を過ごすことができました。

イギリスでの生活はとても楽しく、毎日が充実しており、イギリスで英語を勉強したことや初めて出会った人と一緒に過ごした20日間の研修は私の大学生活にとって貴重な経験となりました。

福崎町学童期運動・食育教室の取り組み

かわ
助教 河 西 正 博
にし まさ ひろ



今年度から福崎町と共に取り組みを開始した学童期運動食育教室（通称：フクちゃんサキちゃんクラブ）事業も残すところ3回となりました。

本事業は、福崎町の小学校に在籍する児童とその保護者を対象に、運動習慣の定着化や食生活の適正化を目指して、運動や食育に関わる教室を実施しています。今年度は、福崎小と田原小において学童運動教室を各16回（計32回）、親子運動教室を11回、親子食育教室を10回実施しています。



学童運動教室と親子運動教室では、本学健康スポーツコミュニケーション学科のスポーツ担当教員5名が講師を務めています。学童運動教室は、「速く走る」「高く跳ぶ」「バランスをとる」など、子どもたちが楽しんで外遊びができるような力を身に付け、その後にスポーツに取り組むために必要とされる動きの習得を目指しています。教室では、ミニハードルやラダー、フープなどをを使ったステップワークのドリル、平均台やバランスボール等を使ったトレーニングなどに加えて、教室の後半では、サッカー やタッチフットボール、バドミントンなどのスポーツ種目を行うことで、前半に習得した動きをさらに発展させるよう取り組んでいます。

親子運動教室では、親子でともに楽しんで運動しながらコミュニケーションやスキルアップを図ることのできるプログラムを提供しています。前半は親子ペアでの運動遊び、ボールやトランポリンなどを使ったゲームを、後半はサッカーやバドミントンなどのスポーツ種目を親子で楽しみました。また、8月には本学のプールを使用して水中アスレチックやゲーム大会、着衣泳を行いました。

これらの運動教室には、インターンシップの一環として学生たちが参加していますが、毎回の参加を望むことは難しく、綿密な指導を行うために学生の参加者数を増やすことが課題となっています。次年度からは学外でのスポーツ指導のインターンシップの単位認定を行う「スポーツ指導実習」という科目が加わります。学生にスポーツ指導の魅力を伝え、教室への参加をより広く呼びかけることで、これらの運動教室をさらに充実したプログラムにしたいと考えています。

小学校での活動の様子



クリスマスボランティアに参加して

い　す　み　ゆい
和　泉　唯

(生活医療福祉学科 児童コース 2年生)

12月19日（水）、大学近隣の神河町屋形地区子ども会主催のクリスマス会ボランティアに行ってきました！

小学生39人という大人数で、私を含めた4人がボランティアに参加しました。

「子どもたちが楽しめる遊びを考えてきてほしい」と保護者の方からの要望があったので、先輩と相談しながら考えました。

3つのアイディアがでて、小学生を8～9人のチームに分け、チーム対抗戦でゲームをしました。

①カゴに5点と10点と20点の紙貼って、ボールで狙う得点ゲーム

②座布団の上に何人乗れるかを競うゲーム

③「あ」から始まる言葉を連想する頭脳ゲーム

初めて会う小学生とは最初はやっぱり距離がありました。でも、自分たちの考えたゲームを通して仲良くなることができ、子どもたちの方から寄ってきてくれるようになりました。昼食と一緒に食べたり、bingoゲームにも参加したり、とても楽しくボランティアをさせて頂きました。

小学生も保護者の方も楽しんで頂けて、ボランティアに参加してよかったです！本当に充実した1日になりました。良い経験ができました。来年も機会があれば是非参加したいと思います。

また、屋形子ども会長の藤波様より、可愛いメッセージカードを頂きました！

心のこもったプレゼントに感激しています。本当にありがとうございました。



かわいいプレゼントをいただきました

恒例のもちつき大会を開催

学友会主催の毎年12月（12月19日開催）に行う恒例イベントです！

杵と臼を使ってのもちつきが初めての学生も沢山いたので、とても盛り上がりました！

はじめてめてもちつきをする1回生も、杵の重さで最初は上手にできませんでしたが、だんだん慣れると上手につけるようになっていました。

また、今年の1番人気メニューはお雑煮でした。会場中に美味しいお味噌の香りが漂って、食欲をそそられました。寒い日は、やっぱり温かいものがいいですね。お餅を食べた学生から、とても美味しいという声が聞けたのが嬉しかったです。

ご協力をいただいた、ボランティア学生や教職員のみなさま、ありがとうございました！

次回も楽しいイベントを企画したいと思います！



学生がついています



いただきま～す



バーベキューイベントに感激

とうりん
塔林

(経営福祉ビジネス学科 1年)

私は、現在、学友会運営委員会のメンバーとして活動しています。入学後、先輩方が開いてくださった新入生歓迎会に参加し、楽しかったので自分も一緒に頑張ってみようと思い、運営委員会のメンバーになりました。

そして、5月には六甲山でバーベキューをしました。何をするのか。どこに行くのか。先生方、先輩と一緒に企画の段階から参加し、同じ1年生にPRしたり、出欠を取ったりしながら、今まで話した事のない学生とも仲良くなれました。

そして、当日、緑いっぱいの六甲山でのバーベキューはもちろんおいしく、サッカーや野球をして楽しみました。私は中国の内モンゴルから来日しました。故郷は見渡す限りの草原で高い山もありません。日本では、福岡、大阪、という都会で過ごし3年になりますが、本当に楽しく過ごしています。

運営委員会と一緒に活動している日本人学生とも仲良くなれ、これからもみんなと楽しい時間が過ごせるよう頑張りたいと思います。



バーベキュー（六甲山）



就職活動振り返って



また よしとも の
又吉智乃
臨床福祉心理学科 4年
就職先 沖縄県竹富町役場

私は、沖縄の離島出身で入学当初から就職は地元で就こうと考えていました。初めはどのような仕事に就くか全く考えていましたが、実習を地元で行い、学んだ福祉の知識や経験をもっと地元でいかしたいと強く思いました。そこで、親の勧めもあり生活の軸を担っている町役場を受けることにしました。試験対策として、親にお願いし公務員講座の予備校に通わせてもらいました。夏休みには毎日地元の図書館に通い、朝から夜まで一生懸命勉強しました。一次試験は筆記試験だったので、予備校から頂いた問題集を何度も繰り返しました。二次試験は面接と作文でした。面接がとても苦手なため緊張しましたが、「福祉を学んできたこと」を自分の強みだと考えアピールしました。作文では故郷に対する思いを意識して書きました。試験の反省として、もっと早くに目標（就職先）を決めるべきであり、アピールポイントだと考えていることをどのように適用させていくかをしっかり自分の中で理解しておくべきだったと思います。

不安な就職活動でしたが、いつも支えてくれた家族や周りの方々に今は感謝の気持ちで一杯です。これからは、この感謝の気持ちを多くの人の「幸せ」の為に尽くしたいと思います。



はざま あやか
間あやか

生活医療福祉学科介護福祉コース 4年
就職先 社会福祉法人宝寿会 特別養護老人ホームうぐいす荘

「人のためになる仕事がしたい」と思い福祉の世界に興味を持ち、この大学と出会いました。入学前の漠然としていた目標は、介護の基礎知識や支援技術、その他の専門知識を学び、また、現場実習を経験する中で「利用者を一番に考えられる人間味のある介護福祉士になりたい」という具体的な目標へと変わりました。実習やサークル活動で、思い悩んだり立ち止まることもありましたが、同じコース、サークルの仲間と励ましあったり、お互いに支えあっていくことで乗り越えていき人間性を鍛えることができたのではないかと思います。

就職は、特別養護老人ホームに決まり目標達成へと一步近づきました。施設を決定した際には、施設の方針が自分の考えと合っているのかを重視し、福祉フェアに参加したり、気になった施設は見学へ行き、自分の目でみて現場の声を聞き、先生と相談したりして選びました。現場では、4年間で学んだことを活かし、常に向上心を持ち精進していきたいと思います。



とも り だい しょう
友利大翔
福祉健康スポーツ学科 4年
就職先 株式会社 ルネサンス

私は、12月から就職活動を始めました。本来であれば企業のことを既に調べていたり、先輩方に話を伺っていたり、と12月よりも前に始めなければいけませんでした。そういった意味では私は少しスタートが遅れています。しかし、幸い希望していた企業へのエントリーは間に合い、選考を受けることが出来ました。だからといってすんなり内定を頂けるわけもなく、約10社から選考途中でお断りの連絡を受けていました。

私が希望していた職種というのは、スポーツ系の商品の開発などを行うメーカー、その商品の販売を行う小売業、またアルバイトをしていたこともあり、スポーツジムのインストラクターも視野に入れていました。

選考を進める中で私が苦労したのは、一番最初の面接とスケジュールの管理でした。私が初めて受けた面接は、第一志望の企業でした。初めてということもあり、緊張していました。これが今でも後悔している一番の私のミスでした。面接は回数を重ねるたびに確実に上手になります。前もって面接慣れをしておけば、第一希望の企業にも内定を頂ける可能性があったのではないかと今でも考えます。

就職活動は長く、落ち込むこともあります。私が最後まで頑張ったのは同じく就職活動をする友人たちと支えあい、たまに思いっきり遊び、上手に息抜き出来たからだと思います。根を詰めすぎないように、上手く休みながら頑張ってほしいと思います。



やす だ しんご
安田真吾

経営福祉ビジネス学科 4年
就職先 株式会社 日本マクドナルド

私は就職活動を単に時期が来たから始めるだけという「イベント」として捉えるのではなく、自分の将来に対し、「自分がいったい何をしたいのか」を深く考える期間だと考えました。

私はより良い就職活動を行うために心がけていたことがあります。それは、しっかりと自分に軸を置き、他人に流されないように活動することでした。個人によってゴールの位置も違う就職活動では、先もはっきりと見えず不安になることがあると思います。しかし、自分軸を明確にすることで、必要な情報が入手できるようになります。それを続けて行くことで、さらに自分だけの就職活動の仕方や将来の自分像が少しずつ絞れてくるように思います。

最後に、就職活動には電車代や昼食代等想像以上に様々な経費がかかります。また、一般常識問題や適性検査の勉強、面接技術等は一朝一夕では身につける事はできません。後輩の方々に私自身が残せるアドバイスとしては「事前の準備が大切だ」ということです。まず、今自分ができることをコツコツ積み上げていきましょう。



実習体験記



ソーシャルワーク実習を終えて

おか やま あい
岡 山 愛

(福祉健康スポーツ学科 3年)

私は、愛媛県宇和島市社会福祉協議会でソーシャルワーク実習を行いました。23日間の実習は、職場実習・職種実習・ソーシャルワーク実習の3段階で行い、とても充実した実習でした。様々な事業や研修に参加させていただき、毎日が学びの多い日々でした。最終段階の実習では、福祉サービス利用援助事業を中心に行いました。その中で、利用者の全ての問題を一人の専門職が解決することは難しく、情報を共有し合い利用者を支援していくかなくてはならないという、それぞれの専門職の限界があることを学びました。また、どの事業もすぐに結果がでることはなく、もしかしたら結果が出ないこともあるかもしれないということも分りました。しかし、諦めずじっくり行うことで少しづつ変化が生まれ、何年か後によかったと思える日が来るということも学ばせていただきました。

今回の実習を通して、自分の足りない部分や伸ばしていきたい部分等様々なことも教えていただき、私自身も何事も焦らず物事を考えていきたいと思いました。実習で学んだ多くのことを決して忘れず、社会福祉士を目指し一歩ずつ進んでいきたいです。

個人を見つめることの大切さ

お ばた
小 畑 あかり

(生活医療福祉学部介護福祉コース 3年)

私が介護実習で学んだのは利用者ひとりひとりを見つめ、支援することの大切さです。

初めての実習では、利用者との関わり方が分からず戸惑いがありました。毎日関わっていく中で利用者の思いを捉えようとしたがなかなか掴むことができず、私は利用者の「現在」だけを見ていたのだと気付きました。

次の段階では、前回の学びを踏まえ、利用者の生活歴や周囲との関係から支援を考えるようにしました。私が関わった利用者は周囲との関わりをあまり持たず、長い間ひとりの生活を楽しんでこられた方だったため、施設内でもひとりの時間を大切にできるよう支援を考えました。

実習の最終段階では、利用者との関わりや生活歴等から支援計画を作成・実施しました。利用者の未来を見据えたよりよい生活を支援していくことの難しさとともに、その働きかけによって利用者が笑顔になることの喜びを感じました。

実習を通してたくさんの利用者と関わってきましたが、すべての利用者には私たちと関わる前に、生活や人生の中で培ってきた価値観や尊厳があります。利用者の現在だけを見るのではなく、過去と現在を見つめ、その方の未来と共に考えていくことが“その人らしい生活の実現”へと結びつくのだと思います。



保育所実習を振り返って

にほんまつ まなみ
二本松 愛 美

(生活医療福祉学科 児童福祉コース 4年)

私は、保育所実習を通して机上の学習では学ぶことができなかったことを沢山知ることができました。私たちが普段何気なく行っている事の中に小さな疑問を抱いたり、発見したり、喜んだりする事で子どもに気づかせられることが多々ありました。

例えば、お弁当袋の紐の結び方と一緒に練習した子どもが、数日後に、「先生、見て。」と上手に結んで見せてくれたことがあります。「すごいね、できるようになったんだ」と言うと「おうちでれんしゅうしてきた」と教えてくれ、子どもはこうして一つひとつ成長していくのだなと感動しました。

また、保育士は子どもだけではなく、保護者の方々への支援、地域の方々とのかかわり、職員同士のチームワークも大切であり、保育士の仕事の多さに、驚きもありました。まだまだ、未熟ではありますが、実習を通じて保育士になりたいと強く思えるようになりました。この春から保育士として保育園で働くことが決まりました。大変なことは一杯あると思いますが、大学や保育所実習で学んだことを糧として、子どもたちと一緒に成長できるように頑張りたいと思います。

精神保健福祉援助実習で学んだこと

お なが りょう な
翁 長 良 奈

(臨床福祉心理学科 4年)

私は地元沖縄県にある精神科病院「新垣病院」で実習をさせて頂きました。入院病棟は五階に分けられており、各階に専従の精神保健福祉士（以下、PSW）が配置されており、担当のPSWの指導を受けながら主に入院患者さん（以下、クライエント）と関わっていました。実習開始の初期は緊張して何もできずに戸惑うことばかりでしたが、担当のPSWの方や他の看護師の職員の方々の丁寧な指導や、わかりやすい説明のおかげで実習の中盤には少しづつ硬さもとれ、クライエントと関わっていくことができました。

今回の実習では、実際の現場でのPSWとクライエントの関わり方、大学で学んでいるものの、漠然としか知らないかった病名や疾患、症状を現場で知ることができた事、各施設のPSWの役割や多様ではあるが入院から退院、更には地域定着までの支援方法を学んだことなど、たくさんの知識を実習を通して得ることができました。人とは、職業とは、福祉とは、といったことを根本から考えさせられ、大変刺激となり、実習は大変ですが、学ぶことが多く、意義深いものであることがわかりました。



播彩祭報告



にしむらあきひさ
西村 明久
(生活医療福祉学科
介護福祉コース3年)

皆さんこんにちは！第13代播彩祭実行委員長を務めさせて頂きました。3年生の西村明久です。今年度は10月27日(土)28日(日)に『第13回播彩祭～咲(さく)～』を無事に行うことが出来ました。今年の播彩祭は『播彩祭を通じて皆さんの笑顔や夢が咲きますように』という想いを込めて行いました。そして、地域の方によるイベント参加やバザーを始め、近隣の障害者施設の方々の模擬店出店など、多くの触れ合いを持つことができました。

二日間を通じて多くの方々にご参加頂くことができ、今年度の播彩祭は大変賑わうことが出来ました。これも日頃からご指導・ご鞭撻の程をしてくださる皆様のお陰だと思います。播彩祭実行委員会一同、感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが、来年度も播彩祭を宜しくお願い致します。



スタッフ集合

連盟表彰受賞について



軟式野球部 岸田 孝之
(福祉健康スポーツ学科3年)

私は、春季リーグでは一塁手として、秋季リーグでは三塁手としてベストナインというタイトルを獲得しました。野球の活動を始めてからこのようなタイトルを手にしたのは初めての経験だった為、大変嬉しく思い、またこれまで続けてきた努力がタイトルを得たことにより自信に繋がりました。私がこのタイトルを取ることができたのは、一部昇格を目指し練習できる意識の高い仲間がいたからだと思います。次の春季リーグでは、昇格できるようにこれからも頑張ります。

アジアベンチプレス選手権で見事優勝！！

ウェイトトレーニング部
藤原 のどか
(生活医療福祉学科 介護福祉コース2年)



表彰台で日の丸とともに

2012年のカザフスタンで開催されたアジアベンチプレス選手権大会では接戦でしたが見事、優勝することができました。この優勝は自分1人だけの力ではなく、学校や仲間、そして家族など、周囲の皆様の支えがあってこそ優勝することができたのだと思います。今後も引き続き、世界大会やアジア大会、日本記録更新を目指して、日々努力し、自分に負けず、厳しい練習をしていこうと思います。これからも頑張りますので応援よろしくお願ひします。



競技風景

平成24年度 後期クラブ活動概要報告

ウエイトトレーニング部…藤原のどか (生活医療福祉学科 介護福祉コース2年生)
近畿ベンチプレス選手権大会
ジュニア63kg級105.5kg 日本記録更新
近畿フルギアパワーリフティング選手権大会
記録ジュニア57kg級115.5kg
ジュニア・一般日本記録更新
ジュニアシングルベンチ日本記録更新
全日本ベンチプレス選手権大会 出場
硬式野球部…近畿学生野球連盟 秋季リーグ戦 3部4位
軟式野球部…近畿学生軟式野球連盟 秋季リーグ戦 2部2位
最高防御率賞・ベストナイン賞 (投手)
藤田恭平 (福祉健康スポーツ4年)
ベストナイン賞 (外野手) 島野貴文 (福祉健康スポーツ3年)
ベストナイン賞 (一塁手) 岸田孝之 (福祉健康スポーツ3年)
男子バレーボール部…関西大学バレーボール連盟 秋季リーグ戦
女子バレーボール部…関西大学バレーボール連盟 秋季リーグ戦
男子バスケットボール部…関西学生バスケットボールリーグ戦
男子サッカー部…関西学生サッカーリーグ (後期) 3部B6位
硬式テニス部…関西学生地域テニストーナメント 5部4位
陸上競技部…関西学生陸上競技個人選手権大会
兵庫陸上競技秋季記録会
姫路陸上競技選手権大会
剣道部…兵庫学生剣道大会 新人戦 1回戦
車椅子ハンドボール同好会…日本車椅子ハンドボール競技大会 出場
ダンスサークル…軽音楽部クリスマスライブゲスト出演
手話サークル…播彩祭公演
吹奏楽部…播彩祭公演、地元楽団との合同演奏
演劇部…播彩祭公演「ハンバーガーショップの野望」
軽音楽部…クリスマスライブ開催
ボランティア支援センター 老人福祉施設、障害者支援施設、地域団体クリスマス会のボランティア参加

お便りコーナー

事務局では、会員の皆様からの
“もっとこういう事が知りたい”
などのご質問、ご意見、お便り
をお待ちしています。電話、
FAX、メールにてご連絡下さい。

発行日：2013年3月

発行：近畿医療福祉大学後援会

事務局 学生課 〒679-2217 兵庫県神崎郡福崎町高岡1966-5

TEL (0790) 22-5125 FAX (0790) 22-6941

E-mail:gakuseibu@sw.kinwu.ac.jp